（様式４）
令和７（２０２５）年１１月２６日

令和７年度　第２回　大阪市立北津守小学校　学校協議会 実施報告書

校園名　　大阪市立北津守小学校

校園長名　石倉　雅之

<table>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">令和７年１１月２０日（木）　１８：００～１９：００</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="3">北津守小学校　校長室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員など</td><td colspan="2">中野　満夫（委員　学校協議会委員長）　寺本　愛（委員　PTA 役員）
杉浦　雅美（委員　北津守保育所長）　稲田　智英（委員　鶴見橋中学校長）</td></tr>
<tr><td>校園</td><td colspan="2">石倉　雅之（校長）　田村　恭彦（教頭）
田村　忠章（人権教育主担）　鴨　佑真（教務主任）</td></tr>
<tr><td>区役所</td><td colspan="2">淺野　志昌（西成区地域支援担当課長）</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="3">(1) 令和７（２０２５）年度「運営に関する計画」（中間評価）について
(2) 学校教育アンケート結果について
(3) 令和７年度全国学力学習状況調査結果について
(4) その他</td></tr>
<tr><td rowspan="2">協議要旨</td><td colspan="2">協議の結果</td><td>意見の概要</td></tr>
<tr><td>(1)</td><td>○「運営に関する計画」（中間評価）について
・安全・安心な教育の推進</td><td>・「北津守３つのゴール」を各学年意識しながら取り組んでいる。予鈴の設定などや、学習環境を整えることで、スムーズに学習を始めることができるようになってきている
・センター校と連携したり、抽出学習をしたりすることで外国にルーツをもつ児童への日本語指導を行っている。「民族学級」週１回、「中国学級」月１回、行っている「多文化共生学級」は現時点では未実施である。
・月に１回職員会議での児童連絡会や、区役所や連携機関との会議を行い、いじめ・不登校・問題行動に対応している。
・台風・地震・津波・火災の避難訓練や交通</td></tr>
</table>

			安全教育を計画通り実施している。
		・未来を切り拓く学力・体力の向上	・研究授業については、スクールアドバイザーの先生からの助言をもとにしながら計画的に進めることができている。全校でモジュールタイムや朝の学習時間に、「算数チャレンジ」や大学と連携した「マイクロステップスタディ」という語彙力を高め、記憶の度合いを図る取組を実施している。 ・外国語に関しては、４・５・６年生で、「英検ジュニア」英語能力調査を３学期に実施する予定 ・個別の支援・指導計画を作成したり、児童連絡会での情報交換行ったりすることで、個に合った支援を行っている。 ・体力に関しては、基礎体力を養うために運動週間を設け、走り幅跳び週間やドッジボール週間を実施。３学期にも取組を計画している。
		・学びを支える教育環境の充実	・デジタル教科書を活用し、視覚的に捉えたり、各学年教科に応じて話し合いや情報収集、資料作成のツールとして学習者用端末を活用したりすることにより、学習意欲の向上を図ることができている。 ・働き方改革に関して、基準２は１００％であり、達成できている。引き続き、会議の精選、振替取得などハード面の改革を継続して行っていく。
	(2)	学校教育アンケート結果について ・児童アンケート結果について	・「学校に行くのが楽しい」の項目では、肯定的な回答の割合が８８％であった。 ・「授業中に友達と話し合って考えることは好き」の肯定的な回答の割合は８５％であった。話し合い活動を中心とした授業構成を実施している成果といえる。 ・「自分にはよいところがある」の肯定的な回答の割合が７６％。引き続き、PBIS（ポジティブ行動支援）など大学と連携しながら自己肯定感が高まるような実践を進めていく。
		・保護者アンケート結果について	・「家庭ではお子さんのがんばったことやできるようになったことをほめるようにしている」「家庭ではお子さんと、会話をするようにこころがけている」「先生は家庭への連絡を必要に応じて行っている」「学校は、保護者の意見や願いを積極的に受け止めて、教育活動を進めている」「先生は、子どもの気持ちを理解しようとしている」「先生は、子どものことについての相談に適切に応じている」「学校は、一人ひとりの子どもに寄り添い、人権を大切にした教育活動を進めてい

			る」などの項目では、肯定的な回答の割合が９０％を超えている。本校の教育基盤である、一人ひとりの子どもを大切にしていくという学校方針が保護者に理解されているといえる。
	(3)	令和７年度全国学力学習状況調査結果について ・国語科	国語科では昨年度の結果と比べて、ほとんどの項目において全国平均との差が縮まってきていた。しかし、ほとんどの項目で全国平均を下回る結果となった。特に「読む」「書く」「思考・判断・表現」「記述式」の項目で全国平均と大きな差がでた。その中で全国と最も差が出たのは、言葉と図を用いて説明することの良さはどういうものかを答える問題であった。　文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることの重要性に気づかせ、自分で活用できるように指導することが重要である。また、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られた。知りたいことについて、予想したり聞いたりしたことやわかったことをまとめ、それらの関係を明確にして結びつける活動をしていく必要がある。　今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果と、昨年度（5学年時）の「すくすくウォッチ」の結果との比較から、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」領域の学年平均で３．８ポイント以上の向上が見られた。現在行っている「マイクロステップスタディ」を今後も継続し、読み取りのための語彙を増やしていく。
		・算数科	算数科でも昨年度の結果と比べて、ほとんどの項目において全国平均との差が縮まってきている。しかし、ほとんどの項目で全国平均を下回る結果となった。最も正答率が低かったのが、平行四辺形の書き方を説明する問題であった。日々の学習で行ってきているかき方であるが、言葉で説明するとなると答えることができていない。日々の学習で説明するための言語活動を充実させていく。
		理科	理科では全ての項目において、全国平均を下回った。特に全国平均と差が大きかった問題の共通点は、必要な情報の把握と活用や、根拠に基づいた説明をすること。日々の学習で、解決したい課題や実験の目的を明確にしたうえで、資料の中から必要な情報を取捨選択し関連付けて読み解くことができるような活動を習慣化する。また、主張や根拠を意識して文章を構成

			するよう意識づけていく。
		・児童質問紙	児童質問紙から、肯定的な回答が９０％近くあった項目は「人の役に立つ人間にないたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」だった。友達や周りの人を大切に思い、行動する人権意識が育まれている。「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の項目は、肯定的な回答が全国平均を上回っている。学習や様々な体験活動を通して他者を認め、傾聴する雰囲気づくりをすすめることで、話し合いのしやすい環境をつくっていることが結果に反映されたと考えられる。また「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「人が困っているときは、進んで助けますか」の肯定的な回答の割合は８０％を超えている。友達のことを思い、行動することを大切にしていく意識をこれからも育んでいく。

協議資料	○令和７年度「運営に関する計画」（中間評価） ○学校教育アンケート結果（１０月） ○令和７年度全国学力学習状況調査結果
備考	傍聴者【　０人　】